市内小学校の部　入賞

ウニの味

鳥羽市立弘道小学校
六年
上村
虎太郎

「虎太郎、一緒にいくか。」

四月、早朝、船に乗りこむ。じいちゃんとパパはヒジキ刈り。ぼくは一人、別行動、貝探し。

岩の下へもぐって、ウニを探す。

小さなすき間を見つけた。アワビ、発見。なんとその隣には、サザエ。

「大漁やな。」

パパの声が船からとんだ。

「よし、次こそ、ウニだ。」

気合いを入れ直し、再び海へ。

もぐって数分。ウニ、発見。

「よっしゃあ。」思わず顔がにやける。

岩の上にすわる。

ウニを石で割る。

コン、コン、コン。硬い。

手にウニのとげがささる。痛い。

ココで負けてはならない。

ゴン、ゴン、バキッ。

「よし。」

穴が開いた。

その穴に指を入れ込んで、手で割る。

一瞬にして、海のにおいに包まれる。

手でほじくり出す。

黄色い、ねっとりした、やわらかな、とろとろしたウニ。

急いで口に放り込む。

めっちゃ濃厚なウニのあまさが口の中に広がる。「うまい。」

幸せのひとときだ。

「相差に生まれてよかった。」と思う瞬間だ。

でも、四月の海は寒かった。